

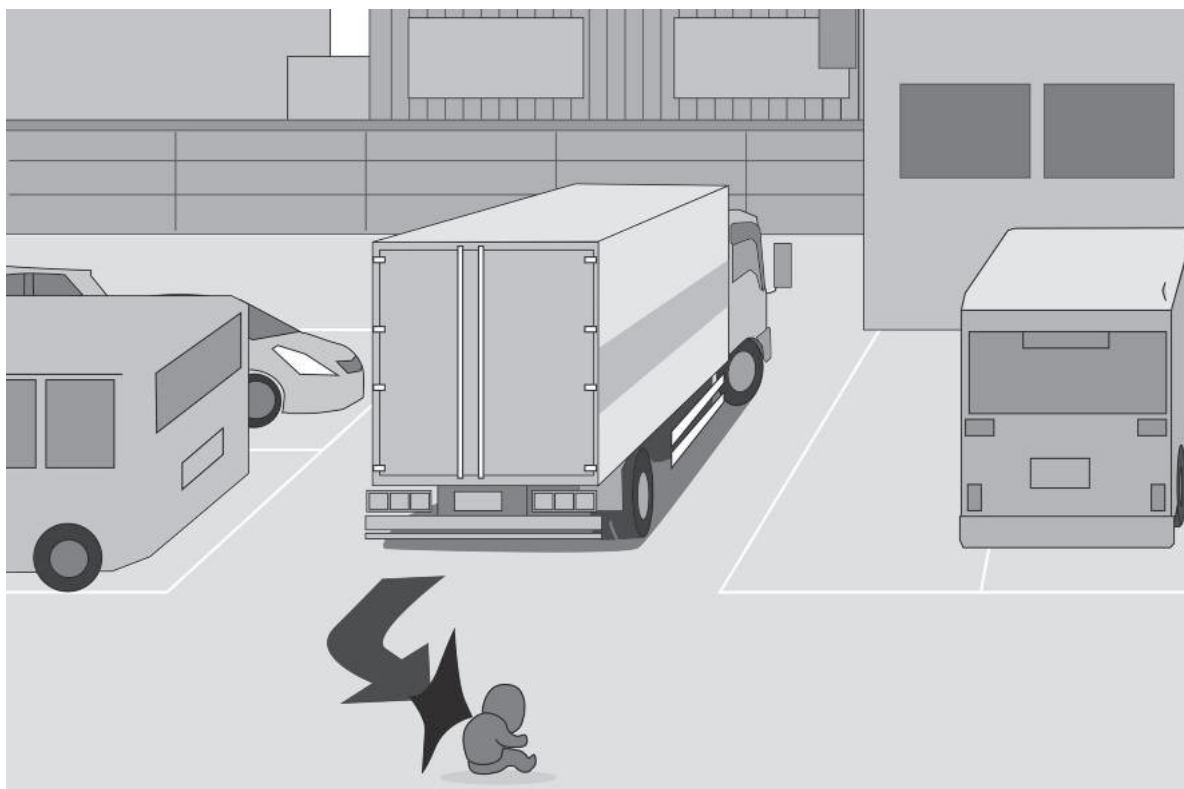
事故に  
学び  
安全運転に  
生かす

## 事例研究 80

# 駐車場でバックして男の子をひく

### 事故の概要

- 発生日時 10月18日（火） 午前12時10分頃 天候 晴れ
- 発生状況 運転者が配達先の店舗駐車場でバックして向きを変えようとしたところ、トラック後方にいた男の子をひいて死亡させたもの。
- 事故当事者 男性47歳 相手側 男性1歳
- 事故原因 運転者は配達先の店舗で納品を済ませ、駐車場で右後方にバックし、向きを変えて道路に出るつもりでした。ハンドルを右に切りながら少しバックすると左側後輪が何かに乗り上げたことを感じました。不審に思い、元の位置に前進させて停止し、後方を見にいくと男の子が倒れていました。ミラーには何も写っていなかったため、車も何もいないと思ってバックしたのですが、トラックの真後ろにいた男の子をひいてしまったのです。



提供：中部交通共済協同組合

## 被害／損害

## 1歳男子死亡

総損害額 4,800 万円

## ■被害概要

- ・被害者の職業 無職
- ・被害状況 頭蓋骨粉碎骨折により死亡。

## ■損害額内容

・逸失利益	2,210万円
・慰謝料	2,530万円
・葬儀費用	60万円
計	4,800万円

## ■運転者について

運転免許取り消し（欠格期間1年）の行政処分を受けました。

## 被害者について

被害者は1歳6ヶ月で両親にとって第一子でした。好奇心旺盛な子で、何かを見つけてはしゃがみ込んで見入る姿がとてかわいかったそうです。

被害者の男の子はこの日、とある店舗の駐車場で食品を移動販売する両親のかたわらで遊んでいました。この店舗の駐車場で移動販売をするようになったのは数週間前からで、男の子には新しくできた遊び場が目新しく、ちょろちょろ動きまわってはお母さんに連れ戻されていました。ちょうどお昼時でお客さんが立て込んで忙しくなり、少し目を放したすきにトラックの後ろに歩いて行ってしまい、気がついた時にはひかれてしまっていました。

この事故で幼い男の子の未来が奪われ、また、親子三人での楽しい生活も途絶えてしまいました。母親は何をしても男の子を思い出し、泣き暮らす日々を続けています。夫は必死に支えようとするのですが、不意に泣き崩れる妻の様子に自身の無力を嘆いて悩んでいます。この事故のために家族三人の幸せで楽しかった日々は失われてしまい、もう元に戻ることはないのです。

## この事故から学ぶ事

運転者は、週に2、3度はその店舗に納品に立ち寄っていました。その日もいつもの場所に前進で駐車し、小さなダンボール箱数個を抱え、店舗カウンターにて納品を済ませました。トラック後部の扉は荷物を取り出した時に閉めたので、そのまま運転席に座ってミラーで左右を確認してバックしました。しかし、トラックの真後ろにいた男の子には気づかず、ひいてしまったのです。

今回の事故では、ミラーだけでは見えない死角がトラックには多く存在するということが、あらためてわかりました。このことはバックでの事故が起こると必ず言われ続けていますが、毎年、バック事故は多数発生しています。後方の安全確認をおろそかにしたばかりに重大な結果を招くこともあるのです。後退する時は必ず運転席から降りて、運転者自身が後方の安全を目視で確認してから後退動作に移ることが大事なのです。たとえバックモニターやセンサー等を取り付けていたとしても、運転者自身の目視に敵うものではないのです。

トラックの真後ろは死角になり、ミラーのみでは見えません。後退時はどんなに急いでいたとしても、必ず下車して車両のまわりを一周し、目視で安全確認しましょう。